



下野綾子舞保存会 会長

関 一重

SEKI KAZUSIGE

1950年 柏崎市出身

1996年～下野綾子舞保存会会長を務める

柏崎市大字女谷おなだにに約500年前から伝わる古典芸能「綾子舞」が3年ぶりに伝承地の女谷で現地公開される。地元であればご存じの方も多いと思うが、綾子舞は、踊り・囃子舞・狂言からなり、初期歌舞伎踊りの面影を色濃く残す極めて価値の高い芸能として、今から46年前（1976年）に国の重要無形民俗文化財に指定された。さらに昨年、綾子舞は「風流踊ふりゅうおどり」の一つとしてユネスコ無形文化遺産にも提案されている。

綾子舞は、かつて4つの集落がそれぞれの芸風を守っていたものの明治中期に途絶えた集落もあり、現在では「高原田たかんだ」と「下野しも野」の2つの集落が座元として芸能を守り受け継いでいる。座元の一つ、下野綾子舞保存会の会長を務める関一重さんは、綾子舞と関わるようになって約30年になる。当時3人の娘たちが通っていた鶴川小学校のPTA会長を務めたことがきっかけだった。学習発表会などで綾子舞に触れる機会も多く、娘たちもそれぞれ下野、高原田の綾子舞の踊り手として活躍した。

座元の代表となってからは年1回の現地公開の他、市外や県外、海外からのさ

まざまな公演依頼に対応した。同時に、田舎下り踊いなかくだりおどりや明神狂みょうじんくれえ（狂言）等、既に忘れ去られていた6種の演目を座元の先達と共に苦労して復活させた。「演じる機会がないと消えてしまう」と積極的に舞台で披露する機会も作ってきた。座元として下野の練習は綾子舞会館で行うが「この場所で練習してもらうことが原点。本来のかたち」だと話す。

現在は、南中学校や新道小学校の伝承学習にも参加し子供たちの指導にも心を砕いている。「熱心に習おう、覚えようとする子供たちが上手になって成長していく姿はやっぱりうれしいもんだね」とほほ笑む。

綾子舞は下野と高原田でそれぞれ特徴がある。踊りでは人数や衣装、小道具に違いがあり、囃子舞や狂言にもセリフや動きに違いがみられる。若い演者のはつらつとした芝居や円熟した年配演者の芝居も味わい深い。年1回の現地公開だからこそ、1時間ものの長い演目や「佐渡亡魂」のような地狂言を演じられる。練習は大変だが一組でも多くの子供たちに舞台を経験させてやりたいと、関さんは現地公開への意気込みを話した。



国指定重要無形民俗文化財
綾子舞 現地公開

観覧無料

2022年9月11日 12:30-15:30

会場：綾子舞会館 特設舞台

*新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

お問い合わせ

●綾子舞会館
柏崎市女谷4529
☎0257-29-3811

●柏崎市立博物館
柏崎市緑町8-35
☎0257-22-0567